

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ 市議団ニュース

<第1回定例会>

2016年3月8日

No. 152

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

莫大な費用と個人情報流出の危険が避けられない マイナンバーは実施すべきでない

太田秀子議員が質問

日本共産党の太田秀子議員は2月29日、総務委員会でマイナンバーの新たなシステム改修について質問しました。

太田議員は、マイナンバーの導入で「国は3千億円もの税金を投入し、本市も今年度10億円を使う見込み」とのべ、「今回のシステム改修が、来年7月のスタートに向けて全国の自治体などの間で住民の情報をやり取りできるようにするもので、これらすべての情報が国の『中間サーバー』に蓄えられる」と指摘しました。

太田議員が「国の中間サーバーがサイバー攻撃を受けたとき、大量の情報が一網打尽とならないか」とたずねると、鈴木情報化推進部長は「情報は暗号化されており、セキュリティーも強化され対策はとられている」とのべました。

太田議員が「情報を盗もうとする側とセキュリティー対策はたちごっこというのが現実、大丈夫と言い切れるのか」というと、鈴木部長は「必要な対策が講じられているものと考えて」とくり返すだけでした。

太田議員は、「自分のマイナンバーの利用状況を確認できるマイナポータルは、個人のパソコンを使うが、ここでも情報流出の危険がある」と指摘。「システム障害でマイナンバーカードの窓口交付ができないなど、業務の効率化どころか職員の負担が増えている。莫大な費用と情報流出の危険が避けられないマイナンバーは実施すべきでない」と訴えました。

視覚障がい者の自立を支えるICタグレコーダー が給付に！

田中啓介議員が質問

日本共産党の田中啓介議員は8日、予算特別委員会で視覚障がい者から要望の強いICタグレコーダーの給付について質問しました。

田中議員は、昨年第3回定例会の委員会質疑でこの問題を取り上げ、「視覚障がい者の日常生活用具として給付対象にすべき」と求めたさい、「対象品目として検討する」と答えたが、「検討の結果どうなったか」とたずねました。

嶋内障がい保健福祉部長は、「重度の視覚障がい者の日常生活の改善をはかる効果が高い用具であり、平成28年度から給付できるよう準備している」とこたえました。

「当事者にとって朗報です」とのべた田中議員は、「新年度の給付予定はどの程度か」「当事者はもちろん多くの方に周知していくことが大切、すべての申請者に給付されるよう予算の補正も含めすすめるべき」と求めました。

嶋内部長は、「新年度は60件程度を見込んでいる」「周知については各区役所の窓口や関係団体、登録業者などを通じてすすめたい」「給付予定の人数を超えた場合、全体の予算のなかで支障のないよう考えていきたい」とのべました。

※ICタグレコーダー～ICタグというシールに「品名」や「消費期限」など、自分の声を録音し、食料品や薬などに貼り付けます。ペンに似た読み取り機を近づけると再生することができます。(機種により違いあり)